

薬剤耐性菌感染症のリスク低下に向けた新しい制御法の確立

長崎大学病院 検査部 村田 美香



現在の医療現場における感染対策は、耐性菌が検出された人を対象に行われていますが、感染前からの対策で、さらに効果を上げることが期待できます。特に、耐性菌の温床といわれる腸管は、水面下で耐性菌の拡散に寄与している可能性があるため、腸内環境は耐性菌を考える上で無視できません。

今回、学術推進プロジェクト研究の成果により、腸内細菌叢の一部の細菌群と、糖利用環境の変化が ESBL 産生大腸菌の定着性に関与している可能性が示唆されました。また、これらの関連が示唆された細菌群と代謝経路(代謝産物)に関して、耐性菌との間にある直接的な相互作用の確認を進めることで、スクリーニング検査として検出対象とする細菌群や代謝産物を選定できると考えられました。

本研究は、薬剤耐性菌に対する感受性を評価するリスクスクリーニング法を開発し、耐性菌伝播の予防へつなげることを最終目標としております。今後も研究を継続し、耐性菌の腸管への侵入・残存に関与する腸内環境を明らかにし、リスクスクリーニング検査法への応用を目指していきたいと考えます。

最後に、このたびは学術推進プロジェクト研究に御採用頂き、誠にありがとうございました。学術推進プロジェクト研究に採択していただいたことは、研究費のサポートのみならず、研究を行う上で大変励みになりました。引き続き臨床検査技師としての視点を大切にしながら、研究活動を継続し、臨床検査の推進に貢献できるように努めていきたいと思っております。